

青木研究室×パスタランテ 人工光バジルの有効活用

青木研究室では、寒冷地における冬季の野菜の屋内栽培環境に関する研究を行っています。

最適な野菜栽培環境を構築するための評価を行うには、定量的な評価が必要ですが、人手による計測では誤差が大きいため、三次元画像計測技術の導入を行い、植物の形状に関して定量評価が行えるようにしました。屋内栽培環境の最適化を実現するための評価技術に関する研究は、いずれは、南極基地や宇宙基地などでの植物栽培に向けた評価につながっていくものと期待されています。

屋内で野菜を栽培するための環境として人工光の利用が考えられます。一般には、植物栽培用の人工光として、蛍光灯やLEDが利用されていますが、青木研究室では、従来の光源以外にもプラズマ発光を利用したLED光源(Light Emitting Plasma)を導入し、植物栽培の評価に取り組んでいます。LEDは従来の光源と比較して太陽に近い特性を有し、自然に近い状態での植物栽培の実現が期待されており、三次元画像計測による評価技術を用いてLED光源の有効性の検証を行います。



青木先生のバジルを食べに行こう

調査が終わった野菜は処分するしかない状況でしたが、あまりにも勿体ない！そこで、市内レストラン「パスタランテ」様に有効活用していただくことになりました。

現在栽培しているバジルは、お店で美味しいソースに変身して提供されています。科技大生の皆さんも、お食事に出かけてみては？寒い冬の季節に、人工の光で育った新鮮なバジルをぜひ味わってみてください。



パスタランテ
千歳市東郊2-15-14